

熱処理受託加工の世界トップ

英ボディコート上陸

名古屋に新会社、自社工場も

ボディコート・ジャパン
のジュリアン・ベイシヨ
ア社長



熱処理受託加工サービス
世界最大の英ボディコー
トが、初の日本人「ボデ
イコート・ジャパン」を名
古屋市に設立した。得意先
の自動車部品メーカーや航
空機部品メーカーが集中し
て立地する東海地方に営業
拠点を置き、受注活動を展
開する方針だ。今後は買取
や新設により、2018年
までに国内に自社工場を10
カ所設け、第1号工場を10
年に稼働させる計画とい
う。

に欧米に進出する日系企業
との間で年間5000万が
(約50億円)の取引をして
いる。日本法人のジュリア
ン・ベイシヨア社長は、
「現地で日系企業向けの営
業活動をしているが、最終
的な決裁権が日本国内にあ
るため、日本人の設立が
必要だった」とした。名古
屋に拠点を新設したこと
については、「この地域には
主要顧客の自動車部品メー
カーや航空機部品メーカ
ーの本社、工場が集中してい
るからだ」と説明した。

英ボディコートの売上高
全体に占める自動車部品の
シェアは24%、航空機部品
は20%に達する。同社は鉄
の表面に炭素を打ち付けて
耐久性を向上させる「低圧
浸炭」の技術に強みを持
つ。自動車の変速機の歯車
などにこの技術が使われて
いる。

また、三菱重工業が国産
旅客機「MRJ」の生産拠
点を名古屋周辺に置く方針



英ボディコートの熱処理技術分野のコア技術の一つ、
低圧浸炭の作業風景(ボディコート・ジャパン提供)

を示しており、同社は航空
機部品関連の受注獲得にも
力を入れるという。

日本での自社工場につ
いては、第1号を東海地区に
設ける方向で検討してい
る。工場規模は延べ床面積
約5000平方メートル、従業員
50〜75人、年間約5億円の
売り上げを見込んでいる。

日本でも熱処理受託加工サ
ービスを手がける事業者は
約400社あるといわれて
いるが、そのほとんどが後
継者難に悩む中小企業だ。
大手製造業は生産拠点を海
外に移すが、その動きにつ
いていけない中小企業が多
い。

英ボディコート 材料物性試験や熱処理
受託加工サービスの世界最大手。世界中に
約180カ所の工場を持つ。自動車部品メーカー、航空
機部品メーカーを中心に世界6万社との取引がある。
本社は英国チェシャー州マクルスフィールド
市。アジアではインドに3カ所、中国に2カ所、タイ
とシンガポールに1カ所ずつ工場を持つ。従業員
数は1万1000人。2007年度の売上高は6億4000万
(約1420億円)、最終利益は6850万(約152億
円)。ロンドン証券取引所上場。

ベイシヨア社長は中小企
業の買取について、「先端
技術をもつ処理プラント、
最新の受注システムの導入
などによって、すばやく企
業価値を高めることができ
る。これまで培った技術や
技能の継承も可能だ」と、
そのメリットを強調した。